

科目名	家族社会学特殊研究			ナンバリング	857385	授業形態	0
対象学年	1・2	開講時期	通年	科目分類	選択	単位数	4 単位
代表教員	菊池真弓	担当教員					

授業の概要	本研究では、今日的な家族状況に対して、社会学的な諸アプローチから何が明らかになるのか、そのアプローチの基本的概念や基本的枠組とは何か、そして家族社会学の基礎的な理論と技法の側面から、現代家族の多様な動態を読み解くことを目標とする。また、それらの家族社会学の先行研究および実証調査などを踏まえた上で、個別の修士論文の研究テーマに応用していくことを目指していきたい。						
到達目標	1.家族社会学とは、いま家族に何が起きているのか、家族社会学の基本的な視点を説明することができる。 2.夫婦・親子関係の諸相や現代家族における夫婦・親子関係の動向について説明することができる。 3.わが国・海外の家族構造の変化、今後の家族社会学の研究動向とその意義について説明することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	新聞やテレビなどで報道される現代家族の実態や意識の変化に関心を持つように心がけてください。また、家族社会学に関する学術雑誌については、熟読することを推奨する。						
ディプロマポリシーとの関連	【人文学研究科 社会学専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
	○	1. 社会学の専門領域について高度な知識を有している。					
	○	2. 問題設定、解決能力を持ち社会科学的視点で分析、判断する能力を持つことができる。					
	○	3. 社会的事実を科学的、論理的、実証的に研究、分析する能力を持つことができる。					
		4. 研究を通して培った論理的な思考力と表現力を実社会で活用し社会貢献ができる。					
	○	5. 各自の研究成果を、修士学位論文にまとめ上げることができる。					
		0 0					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.家族の定義、家族社会学の基本的な視点を説明することができる。 2.家族社会学の研究の潮流を理解して、家族研究の動向について説明することができる。 3.今後の家族社会学の研究動向とその意義について説明することができる。	1.家族の定義、家族社会学の基本的な視点を説明し、かつ具体的な事例にあてはめて考察することができる。 2.家族社会学の研究の潮流を理解し、家族研究の動向とそれらの現状と課題について説明することができる。 3.諸外国と比較しながら、今後の家族社会学の研究動向とその意義について説明することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		40%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○			20%
発表(プレゼン)	○	○			○		20%
出席			○	○			加点はしないが、減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	1.レジュメ作成・発表の際に、適宜コメントする。 2.グループ討論については、ゼミ内で互いに議論を交わし、修正していく。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	家族社会学とは(ガイダンス)	家族社会学とはどのような学問か、そしていま家族に何が起こっているのか、家族社会学の基本的な視点と動向について説明できる。	
	第2回	家族社会学の分析視角(1)	家族研究の意義、家族社会学の歴史的な成立と展開、家族社会学の研究動向について説明できる。	
	第3回	家族社会学の分析視角(2)	家族研究の意義、家族社会学の歴史的な成立と展開、家族社会学の研究動向について説明できる。	
	第4回	比較制度論的アプローチ	社会制度、比較制度論的アプローチの長所と短所、戦前の東アジアの家族・同族研究について説明できる。	
	第5回	形態論的アプローチ	家族形態研究の位置づけ、研究領域と方法、研究成果と事例、家族形態論的アプローチの有効性と限界について説明できる。	
	第6回	歴史社会学的アプローチ	家族の歴史社会学の系譜、伝統家族研究と近代家族論、歴史人口学的家族史について説明できる。	
	第7回	人口学的アプローチ	家族と人口学、人口動態事象の研究、世帯・家族の計測について説明できる。	
	第8回	ジェンダー研究的アプローチ	ジェンダー研究と家族社会学、機能主義役割分業モデルと社会主義平等家族モデル、近代家族論のインパクトについて説明できる。	
	第9回	エスノメソドロジ的アプローチ	家族とエスノメソドロジー、日常性の中の男/女の研究、会話に見られる男女の権力構造について説明できる。	
	第10回	構造機能論的アプローチ	パーソンズの構造－機能分析、ネオ機能分析の有効性と課題、現代家族の機能分析について説明できる。	
	第11回	システム論的アプローチ	家族システム論の位置づけ、夫婦・家族システムの円環モデル、社会システムとのリンゲージについて説明できる。	
	第12回	家族周期論的アプローチ	家族のライフサイクル、家族周期の研究史、家族周期論的アプローチの限界と今後の可能性について説明できる。	
	第13回	家族病理学的アプローチ	家族問題への関心、家族解体論・逸脱行動論・家族病理の視点、現代の家族問題研究について説明できる。	
	第14回	家族ストレス論的アプローチ	家族ストレス論のモデル(ABC-Xモデル、ジェットコースター・モデル、FAARモデル)、家族ストレス論の課題について説明できる。	
	第15回	前期のまとめ	前期の家族社会学研究を総括し、講義内容についての理解度を確認する。	
	試験	試験は実施しない。		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	相互作用論的アプローチ	相互作用論の概念枠組、家族社会学における理論発展、配偶者選択や家族内の相互作用過程についての分析について説明できる。	
	第17回	交換論的アプローチ	交換理論と家族研究、交換理論と基本概念、交換理論の可能性と限界について説明できる。	
	第18回	ネットワーク論的アプローチ	ネットワーク論の概念枠組、個人化する家族/ライフスタイル化する家族、ネットワーク現象としての家族について説明できる。	
	第19回	家族ライフスタイル論的アプローチ	家族ライフスタイルの視点、夫婦家族制から任意家族制へ、家族ライフスタイルに関する実証的研究について説明できる。	
	第20回	ライフコース論的アプローチ	ライフコース論の概念枠組、人生パターンと家族、個人単位の縦断データとコホート分析について説明できる。	
	第21回	構築主義的アプローチ	社会構築主義の淵源、構築主義的アプローチの視点、家族への実践的応用について説明できる。	
	第22回	計量社会学的アプローチ	計量的アプローチとは、家族研究における計量的アプローチの戦略と課題について説明できる。	
	第23回	事例研究的アプローチ	事例研究と統計学的研究の違い、事例研究の問題点、事例研究の実践的検討について説明できる。	
	第24回	家族社会学的アプローチの応用	これまでの家族社会学研究を総括し、講義内容についての理解度を確認する。	
	第25回	社会学的アプローチの応用と課題(1)	家族研究に関連した先行研究やデータなどの収集を行い、分析・考察を深めることができる。	
	第26回	社会学的アプローチの応用と課題(2)	戸田貞三の家族研究を参考にしながら、現代社会の家族について分析・考察を深めることができる。	
	第27回	社会学的アプローチの応用と課題(3)	黒田俊夫の家族研究を参考にしながら、現代社会の家族について分析・考察を深めることができる。	
	第28回	社会学的アプローチの応用と課題(4)	日本家族社会学会全国家族調査(NFR)を参考にしながら、現代社会の家族について分析・考察を深めることができる。	
	第29回	報告会	家族社会学的アプローチを修士論文テーマに応用することができる。また、レジュメを作成して、報告を行うことができる。	
	第30回	全体のまとめ	家族社会学研究を総括することができる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		毎回演習時に指示するテキストおよび参考資料を熟読する。また、毎回レジュメを作成して次回演習に臨むこと。		
授業外学習の指示		【予習】次回取り上げる教科書の章を熟読し、疑問点を明らかにしておくこと(90分)。 【復習】教科書・配布プリントを復習しながら、理解できなかったところについてはさらに調べること(90分)。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	野々村久也・清水浩昭編著『家族社会学の分析視角～社会学的アプローチの応用と課題』ミネルヴァ書房，3,800円，ISBN4-623-03458-5
参考書	(1)川合隆男監修『戸田貞三著作集』大空社,(2)清水浩昭監修『黒田俊夫著作選集』クレス出版，(3)日本家族社会学会全国家族調査報告書など
参考URLなど	適宜、授業内で紹介する。
その他	